

滋賀県平和祈念館 年報

第 2 号

(平成 25 年度)



滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として、平成 24 年（2012 年）3 月に、県民の皆様の大きな希望を担って開館しました。開館の初年目にあたる平成 24 年度の活動（平成 23 年度分を含む。）については、すでに平成 25 年（2013 年）12 月に刊行した『滋賀県平和祈念館 年報 第 1 号（平成 23, 24 年度）』にまとめ、報告したところです。本号では、ひきつづき平成 25 年度の活動をまとめています。

当館では、「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という 3 つの基本方針のもとで、県民の戦争体験を語り継ぐ事業として、展示事業をはじめ、資料収集保存事業、普及啓発事業、平和学習支援事業、ボランティア活動支援事業などを行っています。

平成 25 年度の展示事業としては、第 5 回企画展示『学童疎開のモノ語り』、第 6 回企画展示『滋賀で学ぶ戦争の記録』、第 7 回企画展示『憧れの地 満州－滋賀縣満洲報國農場を舞台に－』のほか、特別企画展示や地域交流展示などを行いました。また開館後も、戦争体験聞き取り調査や収集資料の整理を続けています。

平成 25 年度の普及啓発事業では、戦争体験者のお話会や平和学習講座、体験学習イベントや学生による研究成果発表会、戦争遺跡見学や夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校☆あかり」、そしてピースメッセージ・コンクールなど、大人から子どもまでが参加できるさまざまな事業を行いました。平和学習支援事業では、学校生徒の来館学習や出前講座にくわえて、パネル展示などをつうじた地域への平和学習支援も行っています。

ボランティアの会のメンバーは、平成 25 年度末現在で 64 名の登録者があり、語り部・語り継ぎ部活動をはじめ、9 つのグループ活動があり、当館のさまざまな事業で協働がすすんでいます。

しかしながら、何ととってもまだ開館 3 年目でもあり、試行錯誤を続けながらの事業運営の連続です。これからも日々、当館の運営を見直し、つねに改善を行ってまいりたいと考えていますので、本誌をご高覧いただいた皆様におかれましても、忌憚のない意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

今後とも当館の運営にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

平成 26 年（2014 年）7 月

滋賀県平和祈念館
館長 端 信 行

目 次

はじめに	1
I 事業概要	
1 展示事業	
(1) 企画展示	3
(2) 特別企画展示	16
(3) 地域交流展示	17
(4) その他の展示	19
2 資料収集保存事業	
(1) 戦争体験聞き取り調査	20
(2) 収蔵資料の整理・保存	21
3 普及啓発事業	
(1) 平和学習講座	22
(2) 戦争体験者お話し会	23
(3) 戦争遺跡見学フィールドワーク	24
(4) 滋賀県平和祈念館活動報告・学生による研究成果発表会	24
(5) 終戦の日事業「平和祈念のつどい 8・15」	24
(6) 開館2周年記念事業	26
(7) 館長講座「自分史づくり講座」	28
(8) 体験学習イベント「そだてて、たべよう！戦時食」	29
(9) 夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校☆あかり」	30
(10) 平和を願う子どもピースメッセージコンクール	33
(11) その他一般向けの普及啓発事業	35
4 平和学習支援事業	
(1) 来館学習の支援	37
(2) 出前授業	37
(3) 地域への平和学習支援（平和祈念パネル展・平和学習会）	38
(4) 資料の貸出による平和学習支援	40
(5) 戦争体験者デジタルアニメーションの制作	41
5 ボランティア活動支援事業	42
II 資料	
1 利用状況	44
2 広報活動	48
3 組織	51
4 決算	52
5 施設概要	53
6 利用案内	54
7 関係規程	55

I 事業概要

1 展示事業

(1) 企画展示

第5回企画展示 「学童疎開のモノ語り」



第5回企画展示

会期：平成25年（2013年）6月29日～9月29日

会場：滋賀県平和祈念館企画展示スペース

関連展示：「少女が描いた絵画」

開催趣旨と概要

本企画展示「学童疎開のモノ語り」は、「集団学童疎開」をテーマに取り上げ、昭和19年(1944年)に疎開してきた大阪側の視点と、受け入れた滋賀県側の視点を組み合わせることで、家族と離れ、さみしい思いをしながら疎開をしてきた子どもたち、引率してきた大阪の学校の先生、受け入れた滋賀の人びとなど、大人も子どももすべてが巻き込まれた「集団学童疎開」という戦時の出来事を、体験と資料から紹介した。



第5回企画展示チラシ表面



第5回企画展示チラシ裏面

展示構成

「集団学童疎開 一戦火を逃れてやって来た子どもたち」

昭和19年（1944年）8月31日から9月2日にかけて、大阪市内の東区、南区（ともに現在の中央区）、浪速区、北区から、今の小学校3年生から6年生にあたる子どもたち1万人以上が滋賀県にやってきた。子どもたちは、家族と離れて寂しい思いのなか、集団生活を送っていた。終戦を迎え、大阪へ帰れたのは昭和20年（1945年）10月ごろだったが、待っていたのは空襲で焼けてしまった大阪であった。



「疎開を支えた人びと」

疎開地での生活は、慣れない場所での不自由な辛い生活で、厳しい寒さにも耐えなければならなかった。「大阪に帰りたい」と、さみしい思いをしている子どもたちが楽しくすごせるようにと、引率の先生をはじめ、お世話をしていた寮母は気を配っていた。子どもたちを迎えた地域の人びとは、家事や食糧の提供などを行い、子どもたちの生活を支えた。

受け入れた滋賀の人びと



送り出した大阪の人びと



「疎開先での出来事」

大阪から遠い滋賀で暮らすことになった子どもたちは、地域のお寺などの寮で生活した。最初は、遠足に行くような気分で喜んでいたが、時間が経つにつれ、家族と離れた生活に、これからどうなるのかと不安になっていった。さみしさや空腹、慣れない農業の中でも、家族への手紙には「がんばっている」としか書けなかった。



「戦時の暮らし」

日々の生活では、金属や食糧の「供出」、戦地に行く兵士の見送り、空襲に備えた防空演習、本土決戦に備えた訓練などが行われ、戦争の影響を受け、変化していった。こうした戦争を支える地域や人びとは「銃後」とよばれ、その中心は女性たちだった。子どもたちも、畑仕事や年下の子どもの子守などを行い、労働力として生活を支えた。



「子どもたちが伝える戦時の出来事」

学校から平和についての学習に訪れた子どもたちは、戦争を体験された方のお話や資料から、それぞれが過去を知り、戦争とはどのようなものか、また平和な生活がどうすれば続くかを考えた。現在の子どもたちの視点から見た戦時の出来事を紹介した。



関連展示

企画展示のテーマに関連し、収蔵展示スペースにおいて、長浜市在住の武田倫江さんが国民学校（今の小学校）1年生から3年生の間、学校の図工の時間で描いた絵を展示するとともに、自分が描いた作品を見ながら語っていただいた当時の思い出を紹介した。



収蔵展示「少女が描いた絵画」

第6回企画展示 「滋賀で学ぶ戦争の記録」



第6回企画展示

会期：平成25年（2013年）10月5日～12月23日

会場：滋賀県平和祈念館企画展示スペース

関連展示：「土人形 昭和の子ども」「少女が描いた絵画」（前回関連展示より継続）

開催趣旨と概要

本企画展示「滋賀で学ぶ戦争の記録」は、開館時発刊の「滋賀で学ぶ戦争の記録」の構成に合わせ、滋賀県での戦争の記録から戦時の出来事にふれ、平和への思いが深まるきっかけづくりを目指すものである。学校での学習利用に重点を置き、地域の関わりを通じて、戦時の出来事と現代の視点を関連させて感じられるような構成とした。



第6回企画展示チラシ表面



第6回企画展示チラシ裏面

展示構成

「15年にわたる戦争」

日中戦争から太平洋戦争にかけての戦争で、日本軍では約 230 万人が犠牲になり、そのうちの 3 万人以上が滋賀県出身者であった。戦争には、人やモノが必要となるため、軍需工場や軍事施設が県内に設けられ、たくさんの人が関わっていた。ここでは大きく「戦地での体験」「軍需工場」「軍事施設」にテーマを分けて紹介した。



「戦争と生活の変化」

多くの男性が兵士として戦地へ送られ、生活を支えたのは女性たちだった。また、作物を供出し、空襲に備えた訓練なども行われるようになった。物資は戦地へ送るものが優先されたため、モノ不足の世の中へととなり、戦争中心の生活になっていった。ここでは大きく「出征、応召」「銃後の守り」「モノ不足の世の中」にテーマを分けて紹介した。



「子どもたちと戦争」

戦争が長引くと、勤労働員として生徒も仕事をするようになった。また、学校での授業の内容や作業にも、戦争への協力が求められるようになった。都市部では空襲に備えて、地方への集団学童疎開が始まり、滋賀県では約 3 万人の子どもたちを大阪から受け入れた。ここでは大きく「勤労働員」「学校」「学童疎開」にテーマを分けて紹介した。



「滋賀県への空襲」

滋賀県では、昭和20年(1945年)5月から空襲が始まり、次第に軍事施設や軍需工場、駅などを中心に空襲の頻度が多くなっていった。また、琵琶湖は本州各地の空襲の目的地に向かう際の目安になっていたため、たびたび空襲警報が発令され、県民はそのたびに防空壕や安全な場所に避難しなければならなかった。



「戦争の終わり」

昭和20年(1945年)8月15日、玉音放送において日本の降伏を国民へ伝え、終戦となった。しかし、海外で終戦を迎えた兵士や人びとの中には、なかなか日本へ戻ることができない人も多くいた。物資不足で苦しい生活は続いたが、戦争が終わったことにより、安心して暮らせるようになった。



「子どもたちが伝える戦時の出来事」

学校から平和についての学習に訪れた子どもたちは、戦争を体験した方のお話や資料から、それぞれが過去を知り、戦争とはどのようなものか、また、平和な生活がどうすれば続くかを考えた。ここでは、現在の子どもの視点から見た戦時の出来事を紹介した。



関連展示

企画展示内の「戦時の暮らし」に関連し、収蔵展示スペースにおいて現在の子どもたちが自分の日常と比較しやすいように、日野町在住の正野雄三さんが戦時中の生活を再現して作成された土人形を展示した。

また、壁面ガラスケースでは、前回収蔵展示で紹介した「少女が描いた絵画」を拡大移設して展示した。

土人形 昭和の子ども



少女が描いた絵画



第7回企画展示 「憧れの地満州 —滋賀縣満洲報國農場を舞台に—」

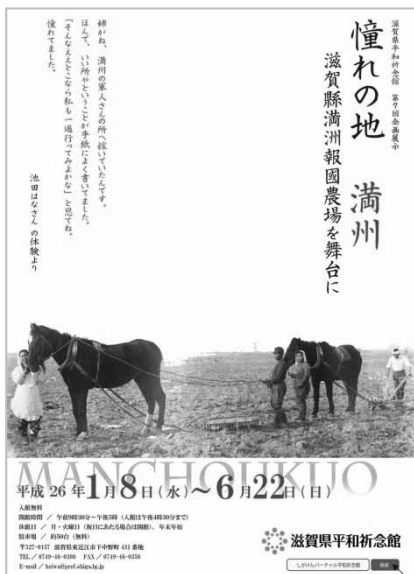


第7回企画展示

会期：平成26年（2014年）1月8日～6月22日
 会場：滋賀県平和祈念館企画展示スペース
 関連展示：「滋賀縣満洲報國農場勤労奉仕隊越冬隊写真帖展」
 「絵はがき」「平成25年度新着資料展」
 関連事業：体験者 神戸 幸子さんによるお話し会
 （平成26年（2014年）3月15日開催）

開催趣旨と概要

本企画展示「憧れの地満州 —滋賀縣満洲報國農場を舞台に—」は、開拓団や義勇隊とは異なる、勤労奉仕として従事した滋賀県報國農場勤労奉仕隊をテーマに、満州で青春を送った若者の体験談や資料を紹介した。



第7回企画展示チラシ表面



第7回企画展示チラシ裏面

展示構成

「満州とは」

「満州」は、本来地名ではなく民族名をさしていたが、19世紀の日本では「満州」は地域を指し、民族は「満州族」と呼ぶようになった。日本で「満州」と呼ばれる地域は、現在の中華人民共和国において「中国東北部」と呼ばれる地域およびロシア連邦の北東アジアの特定地域にわたる広大な地域である。現在では遼寧省、吉林省、黒龍江省のいわゆる東三省がこれにあたり、哈爾濱（ハルビン）、長春（旧新京）、審陽（旧奉天）、撫順などの大都市が並ぶ。肥沃な大地と、石油などの豊富な地下資源にも恵まれていたため、たびたび争いに巻き込まれていた。



「滋賀県満州報国農場」

昭和19年(1944年)2月、食糧増産を目的に満州東部の琿春に滋賀県報国農場が開設され、報国農場勤労奉仕隊が派遣された。開拓団とは異なり、勤労奉仕が目的のため、青年学校などから選ばれた若い隊員は無給で約半年間の農作業に従事していた。そのような暮らしも、昭和20年(1945年)8月9日のソ連参戦により大きく変わっていった。



勤労奉仕隊一次隊

昭和19年(1944年)4月より、男女約90名が渡満。同年10月帰国。



勤労奉仕隊越冬隊

昭和19年(1944年)11月より、第一次隊と交代で男女約20名が渡満。昭和20年(1945年)4月帰国。



勤労奉仕隊二次隊

昭和20年(1945年)5月より、越冬隊と交代で男女約90名が渡満。同年8月9日のソ連参戦により農場を追われ、逃避行を余儀なくされる。昭和21年(1946年)10月、約60名が帰国。



「戦争が終わっても」

昭和20年(1945年)8月9日、ソ連軍が参戦し満州などに攻め込んできた。報国農場勤労奉仕隊の隊員は、ソ連軍の攻撃から逃げ、終戦後も逃避行は続いた。その後、吉林において仕事をし、引率の教員を中心に助けあいながら帰国の日を待ち続けた。やっとの思いで日本に帰れたのは、昭和21年(1946年)の秋。吉林からの最後の引揚団だった。



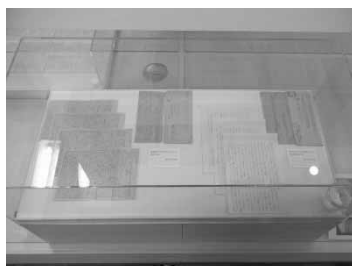
「勤労奉仕隊紹介」

本企画展示において体験談を展示した元勤労奉仕隊 11 名のみなさんについて紹介した。



「手紙・日記を読む」

離れてしまった家族は、お互いに手紙を書くことが唯一の通信手段だった。また、当時の日々の暮らしのなかでの想いは、日記に記していた。戦後長い時間が過ぎた今、届いた手紙や残された日記を手にしなが、体験者は現代の私たちに家族への想いや当時の気持ちを伝えてくれる。



関連展示

企画展示内で展示している「滋賀縣満洲報國農場勤労奉仕隊越冬隊写真帖」に関連し、2階ロビーにおいて写真帖の写真を別途紹介した。

また、収蔵展示では、2階研修室前で展示中の「絵はがき」展に関連し、満州に関連する絵はがきのシリーズを紹介した。壁面ガラスケースでは、「平成 25 年度新着資料展」として、平成 25 年度において新たに収集した資料を紹介した。

滋賀縣満洲報國農場勤労奉仕隊越冬隊写真帖展



絵はがき



平成 25 年度新着資料展



(2) 特別企画展示

第2回特別企画展示 「家族の絆」



第2回特別企画展示

会期：平成25年（2013年）4月1日～平成26年（2014年）3月23日

会場：滋賀県平和祈念館エントランス

開催趣旨

戦争中に多くの方が家族と離れ、戦地に行かなければならないなか、家族に対して涙を見せたり、「無事に帰ってきて」などという気持ちを出したりすることはできなかった。しかし、出征した兵士は戦地で、残された家族は地域で、それぞれ家族の写真を大切に持ち続け、厳しい時代の中でも家族への想いは失われなかった。本特別企画展示「家族の絆」では、そのような写真を通じ、一番身近な存在である「家族」の大切さ、地域の絆の必要性を見直すきっかけづくりを目指した。

(3) 地域交流展示

第5回地域交流展示 「絵はがきと出会う」



会期：平成 25 年（2013 年）6 月 29 日
～9 月 12 日

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

第5回地域交流展示

開催趣旨

本地域交流展示「絵はがきと出会う」は、収集資料である絵はがきをとおして、地域の風景と戦争の2つをテーマに、当時の人々の思いを感じることを目的とした。地域の風景では近江八景から地域の風景を振り返るきっかけに、戦争では軍隊まんが絵はがきを紹介し、コミカルなまんがと戦争との比較を促す機会とした。

第6回地域交流展示 「パンプキン爆弾って何？」



会期：平成 25 年（2013 年）9 月 20 日
～10 月 27 日

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

第6回地域交流展示

開催趣旨

児童文学作家・成安造形大学客員教授である令丈ヒロ子氏の講演会の開催にあわせて、成安造形大学の学生のみなさんによる「パンプキン爆弾って何？」という学習パンフレットを制作してもらい、その取組についてパネルで展示し、紹介した。

第7回地域交流展示 「平和を願う子どもピースメッセージコンクール作品展示」



会期：平成25年（2013年）10月30日
～12月23日

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

第7回地域交流展示

開催趣旨

次世代を担う子どもたちが、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子どもたちが描く絵画を通して、広く県民に平和への思いを伝えることを目的として実施した。県内の小学校5年生から中学生を対象に作品を募集したところ、県内小・中・特別支援学校30校から776作品の応募があり、すべての応募作品を展示した。

第8回地域交流展示 「子ども学習成果展」



第8回地域交流展示

会期：平成26年（2014年）2月19日～6月22日

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

開催趣旨

平成25年度に滋賀県平和祈念館を利用した県内小中学校の児童生徒が戦争や平和について学習し、その成果をまとめた作品を展示した。あわせて、平成25年9月から12月に来館して学習した児童生徒によるピースメッセージ1,770枚を展示した。

(4) その他の展示

2階ロビー展示 「戦時中のポスター展」



会期：平成 25 年（2013 年）6 月 29 日～
10 月 27 日

会場：滋賀県平和祈念館 2 階 ロビー

戦時中のポスター展

開催趣旨

戦時中には、戦争への協力を促す手段のひとつとして、さまざまなポスターが作成された。これらのポスターから、当時の日本の置かれた状況やさまざまな法令、それが国民生活にどのような影響を与えていたかを伝えた。

2階ロビー展示 「滋賀県満洲報國農場勤労奉仕隊越冬隊写真帖展」



会期：平成 26 年（2014 年）1 月 8 日～
6 月 22 日

会場：滋賀県平和祈念館 2 階 ロビー

滋賀県満洲報國農場勤労奉仕隊越冬隊写真帖展

開催趣旨

2階ロビー展示「滋賀県満洲報國農場勤労奉仕隊越冬隊写真帖展」は、第7回企画展示内で展示した「滋賀県満洲報國農場勤労奉仕隊越冬隊写真帖」に関連し、写真帖の写真を別途紹介したものである。滋賀県満洲報國農場に関する公文書等の資料がほとんどないなか、当時の隊員の暮らしや風景を伝えた。

2 資料収集保存事業

(1) 戦争体験聞き取り調査

滋賀県平和祈念館では、戦争当時滋賀県にお住まいだった方、あるいは滋賀県にご縁のあった方を対象に、調査員 2 名を配置して戦争当時の話の聞き取り調査を行った。体験者の方の高齢化が進む中、一人でも多くの方の体験を記録として残すことが急務となっている。平成 25 年度は、173 名から体験談を聞き取りした。

～平成 25 年度戦争体験聞き取り調査事例～

飛行場拡張に関連しての思い出

藤川萬蔵さん(87)＝東近江市＝

大正 11 年(1922 年)に、陸軍飛行場として開設された八日市飛行場は、戦線の拡大と共に長い滑走路を備えた飛行場へと拡張されていきました。飛行場と共に発展してきた八日市のまちでしたが、飛行場周辺では、拡張工事のための立ち退きや、昼夜行われる訓練による騒音などの問題も発生してきました。

八日市に住む藤川萬蔵さん(87)のご両親は、藤川さんが 10 代の半ばを過ぎたころ、借金をして所有していた農地の隣に土地を買い足しました。それは、藤川さんが出征し、兵役を終えて無事帰ってきたときに農業で食べていけるようにとのご両親の思いからでした。

土地を購入して間もなくの昭和 18 年(1943 年)、八日市飛行場の拡張が決まりました。軍刀をかざし、土地の提供を詰め寄る軍人相手にご両親は断ることができず、手に入れた土地と、これまでに持っていた土地を合わせて、当時の 4,000 円で陸軍に売却することに泣く泣く同意されました。

土地を売却された翌年の昭和 19 年(1944 年)8 月、藤川さんは志願兵として海軍へ入隊されました。その後、藤川さんの両親が売却した土地には、飛行場内の兵舎などで使用されるゲタの工場が建設されました。敷地にあった松林は伐採され、ゲタの材料にされてしまいました。

結局、陸軍から土地の代金を支払われることはないまま、昭和 20 年(1945 年)8 月の終戦を迎えました。ただ、敷地の松で作ったゲタを一足だけ、飛行場で働いていた方がもらって来てくれました。その後、復員してきた藤川さんはこの話を聞き、とても残念だったことを覚えておられます。

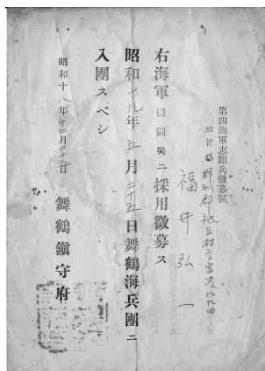
「親父は軍に騙されよった。もらったゲタなんか見たくもないと言いながら、履かずに大事にしとったけどなあ。悔しかったんやろうな。それも、もうどっかにいってしもたわ。」と、お話下さいました。

(2) 収集資料の整理・保存

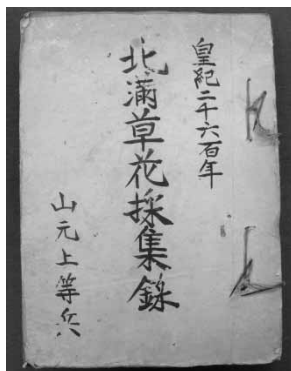
滋賀県平和祈念館では、体験談にまつわる資料や戦争当時の滋賀県に関連する資料 30,000 点以上を収集し、その整理、保管を行っている。平成 25 年度は、新たに 3,940 点の資料を収集した。

寄贈資料は、各家庭で長期間置いておかれたものが多く、保存状態もまちまちである。現在の状態をこれからも保ち、次世代へ伝えていくために、適切な保存作業を日々行っている。

平成 25 年度収集資料（一例）



海軍志願兵採用通知書
野洲市 福井弘一さん提供



北満草花採集録
草津市 山元憲司さん提供



千人針
野洲市 阿加井政枝さん提供

3 普及啓発事業

(1) 平和学習講座

< 6 月 >

○講座名

太平洋戦争の頃の湖東地域

○開催日時

平成 25 年 (2013 年) 6 月 8 日 13:30~15:30

○講師

滋賀民俗学会 理事 野村 赤一氏

○受講者

33 名



平和学習講座 (野村氏)

< 9 月 ~ 1 2 月 (4 回連続講座・各月第 2 土曜日開催) >

○講師

佛教大学 歴史学部 教授 原田 敬一氏

○開催日時・内容・受講者

第 1 回 平成 25 年 (2013 年) 9 月 14 日

「日本の平和思想と平和運動」

受講者 41 名

第 2 回 平成 25 年 (2013 年) 10 月 12 日

「日本の軍隊と自衛隊」

受講者 45 名

第 3 回 平成 25 年 (2013 年) 11 月 9 日

「『坂の上の雲』と日露戦争以後」

受講者 29 名

第 4 回 平成 25 年 (2013 年) 12 月 14 日

「戦争の終わらせ方」

受講者 38 名

※開催時間は、各回とも 13:30~15:30



平和学習講座 (原田氏)

< 3 月 >

○講座名

残されたシベリア抑留の記録

— 「敗戦の詩集」にこめられた抑留者の叫び—

○開催日時

平成 26 年 (2014 年) 3 月 16 日 13:30~15:30

○講師

大津市歴史博物館 館長 樋爪 修氏

○受講者

52 名



平和学習講座 (樋爪氏)

(2) 戦争体験者お話し会

<夏のお話し会>

- 【第1話】 平成25年(2013年)8月11日 13:00~15:00
語り部：碓本 綾子さん(大正15年生まれ 87歳 大津市在住)
内 容：戦争時代を生きた一教師の体験
参加者：51名
- 【第2話】 平成25年(2013年)8月12日 13:00~15:00
語り部：松村 武温さん(昭和12年生まれ 76歳 米原市在住)
内 容：幼き日のくらしと米原への空襲
参加者：38名
- 【第3話】 平成25年(2013年)8月13日 13:00~15:00
語り部：吉田 房彦さん
(昭和10年生まれ 77歳 奈良県三郷町在住)
内 容：滋賀での疎開生活と大阪大空襲
参加者：27名
- 【第4話】 平成25年(2013年)8月14日 13:00~15:00
語り部：近藤 伊助さん(大正15年生まれ 87歳 多賀町在住)
内 容：人間魚雷「回天」の搭乗員となって
参加者：75名
- 【第5話】 平成25年(2013年)8月15日 10:00~12:00
語り部：荒木 俊夫さん
(昭和4年生まれ 84歳 近江八幡市在住)
内 容：終戦の詔勅放送のあと、本土決戦を覚悟
参加者：62名

<開館2周年記念事業のお話し会>

開催日時：平成26年(2014年)3月15日 13:30~15:00
語り部：神戸 幸子さん(大正10年生まれ 92歳 米原市在住)
内 容：滋賀県報国農場について
参加者：64名

<収蔵展示関連事業>

開催日時：平成25年(2013年)11月27日 10:30~11:10
平成25年(2013年)12月5日 14:00~14:40
語り部：正野 雄三さん
内 容：土人形で語る私の戦争体験
参加者：74名(2日間合計)

(3) 戦争遺跡見学フィールドワーク

○内容・タイトル（場所）

大津第九連隊にかかわる戦争遺跡めぐり
～大津市歴史博物館・園城寺周辺の講師による案内～
（若鷲の碑・御幸山の記念碑・園城寺の絵馬など）

○開催日時

平成 25 年（2013 年）7 月 7 日 9:00～12:00

○講師

滋賀県戦争遺跡研究会・滋賀県立大学 教授 中井 均氏

○参加者

18 名



フィールドワークの様子

(4) 滋賀県平和祈念館活動報告・学生による研究成果発表会

○開催日時 平成 26 年（2014 年）3 月 8 日 13:30～15:50

○内容

・活動報告

田中 慶希（滋賀県平和祈念館）
「中学校への平和学習支援」

・研究発表

辻 優美さん（滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 4 回生）
「旧日本陸軍における食器類について」

宮岡 雄大さん（大谷大学文学部歴史学科 4 回生）
「学童疎開の研究～滋賀県を事例にして～」

白築 佑希恵さん（滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 4 回生）
「滋賀県平和祈念館における戦争の記憶とその構築プロセス」

日高 昭子（滋賀県平和祈念館）
「博物館資料としての「無形資料」に関する考察

～滋賀県平和祈念館における体験談の収集と活用を事例に～」

○参加者 36 名

(5) 終戦の日事業「平和祈念のつどい 8・15」

平成 25 年（2013 年）8 月 15 日に夏休み特別企画として、家族や友人と一緒に平和について考えてもらうことをねらいとした「平和祈念のつどい 8・15」を開催した。当日は、戦争体験者お話し会や子どもたちによる平和をテーマにした人形劇、朗読発表会などを開催したほか、ボランティアの協力のもと、戦時中に食べられたおやつを提供した。また夜間も特別に開館し、子どもたちが平和への願いをこめて描いた絵のあんどんを点灯し、幻想的な雰囲気の中、学芸員による展示案内「ナイトミュージアム」や「平和のあかりコンサート」を開催した。当日の来館者は 1,082 人であった。

○事業内容

- 10:00～12:00 戦争体験者お話し会（再掲）（参加者 62 名）
語り部：荒木 俊夫さん（84 歳）
内 容：終戦の詔勅放送のあと、本土決戦を覚悟
- 12:00～ 黙とう、館長からの平和メッセージ
- 15:00～15:30 人形劇上演会（参加者 54 名）
上演：八日市北小学校学童保育所どんぐりシアター
演目：あばあちゃんのむかしばなし
- 15:30～16:00 戦時食体験（参加者 50 名）
内容：戦時中に食べられたおやつを提供
協力：滋賀県平和祈念館ボランティアの会
- 16:00～16:30 朗読発表会（参加者 56 名）
朗読：朗読サークル「ひだまりの会」蒲生教室
作品：「雲」（あまんきみこ作）ほか
- 18:00～18:45 ナイトミュージアム ～学芸員による展示案内～
- 19:00～ 平和のあかり点灯式
～子どもたちが平和への願いをこめて描いた絵のあんどんを点灯～
- 19:30～20:30 平和のあかりコンサート（参加者 55 名）
出演：JERRYBEANS & yokko（NPO 法人マイペースプロジェクト）

滋賀県平和祈念館

平和祈念のつどい 8・15

滋賀県平和祈念館では、夏休み特別企画として「平和祈念のつどい 8・15」を開催します。当日は、戦争体験者の方のお話し会や子どもたちによる人形劇の上演などを行います。また、夜も開催し、「平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム」を行います。


ご家族やご友人と一緒に滋賀県平和祈念館にお越しいただき、みんなで平和について考えてみましょう。

開催日 平成 25 年 8 月 15 日(木)

プログラム 裏面をご覧ください。

参加費 無料

申込方法 平和のあかりコンサートへの参加を希望される方は、申込用紙に必要事項をご記入の上、滋賀県平和祈念館に直接持参いただくか、郵送、FAX またはメールでお申し込みください。



お問い合わせ・申込先

滋賀県平和祈念館

〒527-0157 東近江市下中野町 431
TEL: 0749-46-0300
FAX: 0749-46-0390
E-mail: heilwa@pref.shiga.lg.jp

----- キリトリ線 -----

「平和のあかりコンサート」申込書

☆性別が□() ☆年齢(大人____人 子ども____人)
☆ご住所(____) (____) (____)
☆電話番号(____) (____) (____)

★プログラム★

戦争体験者お話し会 10時～12時
語り部 荒木 俊夫さん 「終戦の詔勅放送のあと、本土決戦を覚悟」
会場 1階 地域交流室

滋賀県平和祈念館長からのメッセージ 12時05分～

人形劇上演会 15時～15時30分
上演 「あばあちゃんのむかしばなし」
八日市北小学校学童保育所どんぐりシアター
会場 1階 地域交流室

戦時食体験 15時30分～16時
内容 戦時中に食べられたおやつを提供
協力 滋賀県平和祈念館ボランティアの会

朗読発表会 16時～16時30分
朗読 「雲」（あまんきみこ作）ほか
会場 朗読サークル「ひだまりの会」蒲生教室
会場 1階 地域交流室

ナイトミュージアム 18時～18時45分
～学芸員による展示案内～

平和のあかり点灯式 19時～
～子どもたちが平和への願いをこめて描いた絵のあんどんを点灯します～

平和のあかりコンサート 19時30分～20時30分
出演 JERRYBEANS（ジャリービーンズ）
定員 100名（先着順）
会場 2階 研修室

☆平和のあかりコンサート 出演者紹介☆

JERRYBEANS（ジャリービーンズ）
Bass&Drum 川田 典之（はつた ののゆき）（専業主婦）
Vocal&Guitar 山崎 文雄（やまざき しんご）（専業主婦）
Drums&Chorus 山崎 達介（やまざき だいき）（専業主婦）

地元滋賀を拠点に、全国で活躍中の音楽グループ。調音までには滋賀県内のアール・ムラカミ音楽リソース、メンバー全員が小学校高学年～中学まで音楽教室。20歳の頃に知り合いに付き合っている、カンパリア、日本では最大規模の音楽祭「生きる」に「人海」「平和」を演奏している。NPO 法人マイペースプロジェクト H.P.より。

「平和祈念のつどい 8・15」 開催チラシ



人形劇上演会



朗読発表会



平和のあかり点灯



平和のあかりコンサート

(6) 開館2周年記念事業

開館2周年を記念して、平成26年(2014年)3月8日、15日、16日の3日間にわたって、様々な事業を開催した。

3月8日は、「語りつぐ 戦争の記憶 平和への願い～20代がみた戦争・平和祈念館」と題して、大学の卒業論文の執筆にあたって当館との関わりがあった3人の学生による研究発表を行うとともに、職員による学習支援や資料に関する報告および発表を行った。

3月15日、16日には、戦争体験者お話し会や平和学習講座、子どもを対象とした体験イベント「戦時中のおやつを作ろう」などの催しを開催した。

また本イベントの開催にあわせて、ボランティアの協力のもと、人形劇の上演や戦時食(すいとん、豆ごはん、おやつ)の提供を行った。3日間で延べ424人の来館者があった。

○イベント内容

<3月8日>

- ・滋賀県平和祈念館活動報告・学生による研究成果発表会(参加者36名(再掲))
「語りつぐ 戦争の記憶 平和への願い～20代がみた戦争・平和祈念館～」
- ・参加者へ戦時食(すいとん)を提供

<3月15日>

- ・ボランティアによる人形劇の上演
- ・戦争体験者お話し会
語り部：神戸 幸子さん
内 容：滋賀県報国農場について
- ・参加者へ戦時食（豆ごはん）を提供

(参加者 64名(再掲))

<3月16日>

- ・体験イベント「戦時中のおやつを作ろう」
- ・ボランティアによる人形劇の上演
- ・平和学習講座

(参加者 15名)

(参加者 52名(再掲))

講師：大津市歴史博物館 館長 樋爪 修氏

内容：残されたシベリア抑留の記録

－「敗戦の詩集」にこめられた抑留者の叫び－

- ・戦争体験者デジタルアニメの上映

滋賀県平和祈念館 開館2周年イベント



滋賀県平和祈念館が開館して
まもなく2年になります。
これまでに7万人以上の方に
ご利用いただきました。

このたび、開館2周年を記念して
3日間にわたり様々なイベントを
開催します。
みなさま、ぜひご来館ください。

◆3月8日(土)

13:30~15:50 要事前申込

滋賀県平和祈念館活動報告・学生による研究成果発表会
「語りつく 戦争の記憶 平和への願い〜20代がみた戦争・平和祈念館〜」
※当日は、戦時中に食べられた「すいとん」をご参加いただいた方に提供させていただきます。

◆3月15日(土)

11:00~12:00 申込不要

ボランティアによる紙芝居・人形劇上演
●上演作品
紙芝居：「私のお姉ちゃん」「人生の分岐点」

人形劇：「干しいちと母さん」

13:30~15:00 要事前申込

戦争体験者お話し会
語り部：神戸 幸子さん(92歳)
内 容：滋賀県報国農場について

午前・午後の各催し終了
後に、戦時中に満州で食
べられた「豆ごはん」を
ご提供します。
(全体で40食を提供予定) 

協力：ボランティア戦時食流動グループ

◆3月16日(日)

9:30~10:50 要事前申込

体験イベント
「戦時中のおやつを作ろう」
定 員：10組
参加費：おひとり20円(保険料)

13:30~15:30 要事前申込

平和学習講座
講師：樋爪 修氏(大津市歴史博物館 館長)
内容：残されたシベリア抑留の記録
－「敗戦の詩集」にこめられた抑留者の叫び－

11:00~12:00 申込不要

ボランティアによる紙芝居・人形劇上演
●上演作品
紙芝居：「私のお姉ちゃん」「人生の分岐点」
人形劇：「干しいちと母さん」

10:00~15:00 今年初めて上映しました

戦争体験者アニメを上映します。
●上映作品(各15分程度)
「大阪から来た女の子」
「滋賀県満州報国農場の若者たち」

第7回企画展示 開催中

憧れの地 満州
～滋賀県満州報国農場を舞台に～

昭和19年(1944年)2月、食糧増産を目的に満州東北部の陣営に
滋賀県満州報国農場が開設され、報国農場勤務仕様が派遣されま
した。今回の企画展示では、憧れを抱きながら満州へ渡り、時代の
流れに翻弄された隊員の体験から、戦時の出発点をふりかえります。





滋賀県平和祈念館

〒527-0157 東近江市下中野町431
TEL 0749-46-0300/FAX 0749-46-0350
E-mail hewa@pref.shiga.lg.jp

アクセス
●名神高速道路「八日市IC」より車で約10分
●JR琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅
乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分
「愛東支所・診療所前」下車すぐ

イベント開催のチラシ



学生による研究発表



職員による平和学習支援活動報告



戦争体験者お話し会



「戦時中のおやつを作ろう」



平和学習講座

(7) 館長講座「自分史づくり講座」

平成 24 年 (2012 年) 7 月から、毎月第 3 土曜日に「自分史づくり」をサポートする「自分史づくり講座」を開始した。平成 25 年度においては 11 回開講し、延べ 48 名の受講があった。

受講者は、これから自分史を書き始めようとしている方から、すでにある程度書き進めている方まで様々で、書き進めている方の原稿に対して館長がアドバイスをするという形式で講座が進められている。



講座の様子

当館では引き続き、一人ひとりのかけがえのない人生を、生きた記憶を、自分のことばで次の世代に伝える「自分史づくり」をサポートしていく。

(8) 体験学習イベント「そだてて、たべよう！戦時食」

- 開催日時 1回目：平成25年(2013年)6月2日 9:30～12:00
2回目：平成25年(2013年)10月6日 9:30～12:00
- 内容 1回目 サツマイモの苗植え
戦時中に食べられた野草探し
野草のしおり作成
2回目 サツマイモ掘り
戦時食作り
- 場所 滋賀県平和祈念館 地域交流室
あいとうマーガレットステーション隣接農園
愛東コミュニティーセンター 調理室
- 参加者 5家族(1回目17名、2回目14名)
- 協力 滋賀県平和祈念館ボランティア戦時食グループ



サツマイモの苗植え



野草のしおり作り



サツマイモ掘り



戦時食の実習

(9) 夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校☆あかり」

戦争体験者の体験や平和への思いを継承するために、学校の夏季休業期間中に持続的な学習プログラムを設定し、より深く滋賀県における戦争と平和について理解する児童の育成に取り組むために企画した。「へいわの学校☆あかり」は、当館が実施する夏休み限定の学校で、“あかり”には、戦争のあった事実を知り、夜間も自由にあかりがともせる平和な世の中を作っていきたいという願いを込めている。

平成 25 年度は、夏休み期間中の週末ごとに開校し、多様なプログラムを準備して、多く子どもたちが参加できるようにした。

○開催期間 平成 25 年（2013 年）7 月 28 日、8 月 3 日、10 日、17 日、
24 日、31 日の 6 日間

○参加者総数 127 名

○内容

①「戦時食を作って、食から戦争を考えよう」（7 月 28 日）

ボランティア戦時食グループの協力のもと、戦時中に食べられた“すいとん”を作り、試食するワークショップ。（参加者 親子 18 名）



すいとん作りに取り組む参加者



作ったすいとんを試食する参加者

②体験者お話し会～集団学童疎開のくらし～（8 月 3 日）

集団学童疎開を経験された池田喬子さんを語り部に迎えた。（参加者 19 名）



池田さんの体験談を聞く参加者



池田さんと展示見学をする参加者

③平和の願いをこめたアロマキャンドルを作ろう(8月10日)

あいとうエコプラザ菜の花館との協働事業。当館において平和学習に取り組み、その後、菜の花館においてアロマキャンドル作りに取り組んだ。(参加者 12名)



キャンドル作りに取り組む参加者



完成したキャンドルと平和を願う
メッセージを描いたあんどん

④体験者お話し会～国民学校の学級日誌～(8月17日)

戦時中、瀬田国民学校5年生児童で毎日、学級日誌を書かれていた吉田清子さん、奥村早智子さん、内田喜代子さん、本郷豊子さんの4名を語り部に迎えた。(参加者23名)



お話し会の様子



4つのグループに分かれて展示見学

⑤親子で米原の蒸気機関車避難壕を見学しよう（8月24日）

岩脇まちづくり委員会の案内で米原市岩脇の蒸気機関車避難壕を見学した。
（参加者 21名）



避難壕に実際に入って、中の様子を見学する参加者。

⑥古代、現代の戦争～古代武器を作ろう～（8月31日）

滋賀県文化財保護協会の協力のもと、発掘の現場と戦争のつながりについて、説明を聞いたり、古代武器（石鏃）を作ったりした。（参加者 34名）



石鏃を作り、屋外で弓矢体験をする参加者。

(10) 平和を願う子どもピースメッセージコンクール

次世代を担う子どもたちが、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子どもたちが描く絵画を通して、広く県民に平和への思いを伝えることを目的として実施した。今回、県内の小学校5年生から中学生を対象に作品を募集したところ、県内小・中・特別支援学校30校から776作品の応募があった。

○展示期間 平成25年(2013年)10月30日～12月22日

○表彰式 平成25年(2013年)11月3日

○入賞者・入賞作品

	学校名	学年	氏名
ピース賞(小学校)	大津市立青山小学校	第6学年	岡部 京香
ピース賞(中学校)	湖南市立石部中学校	第2学年	小嶋 朱理
ハート賞(小学校)	栗東市立治田小学校	第6学年	照屋 日向子
ハート賞(中学校)	日野町立日野中学校	第2学年	岸村 真菜美
オリーブ賞(小学校)	守山市立河西小学校	第6学年	太田 新一郎
オリーブ賞(中学校)	彦根市立東中学校	第3学年	増田 葵

※賞について

・ピース賞

滋賀県平和祈念館の理念と合致していることや祈念館の事業を推進するうえで効果的な作品

・ハート賞

制作者の平和への思いを画面に意欲的に工夫し、効果的に表現している作品

・オリーブ賞






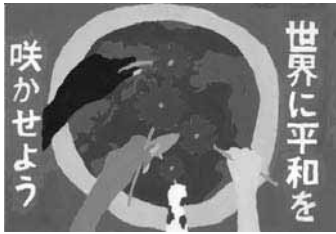
平和への思いを自分らしい発想や構想で表現し、線画や色使いの技能が優れている作品



表彰式



作品展示の様子

	作品	制作者の思い
ピース賞 (小学校)		みんなの国が手をつなぐほど仲良くという意味をこめてかきました。
ピース賞 (中学校)		2つの手は、赤ちゃんの手と大人の手です。平和な世界を大人から次の未来をつくっていく子ども達へ受け継がれていくのをイメージしました。
ハート賞 (小学校)		戦争のあった暗い過去から戦争のない明るい未来へいろいろな国の人が手を取り合って歩いていく様子をイメージしてかきました。
ハート賞 (中学校)		争いのない平和な世界をイメージしてかきました。絵にかいてある赤い糸はそんな思いを込めて、あえて中心に固く結んだつなぎ目をつけました。
オリーブ賞 (小学校)		悲しい気持ちやいやな気持ちを花がつつんでうれしい気持ちに変えて、そのうれしい気持ちが大きな花のまわりにある花です。それで、戦争のない世界にしたいです。
オリーブ賞 (中学校)		世界の中にはさまざまな生き物がいます。みんなそれぞれちがうけど、そんなこと関係なく世界中のみんなが幸せと感じて、平和と心からいえる世界をめざして

(11) その他一般向け普及啓発事業

①ふみおばちゃんの布ぞうり作り教室

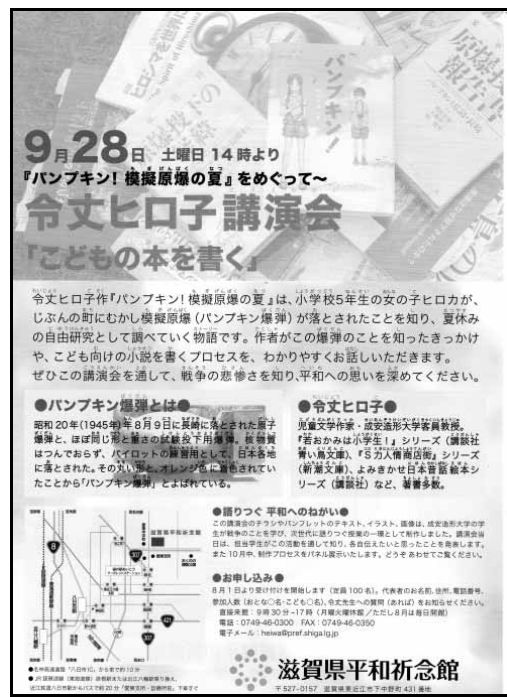
- 開催日時 平成 25 年(2013 年)7 月 5 日 9:30～12:00
- 指導者 大田 夫美子さん (ふみおばちゃん)
- 内容 子どもの頃、手作りでわら草履を作っていた大田さんを講師に迎え、材料を布に変えて布草履を作った。
- 参加者 18 名



布ぞうり作りの様子

②令丈ヒロ子講演会

- 開催日時
平成 25 年(2013 年)9 月 28 日 14:00～15:00
- 講師
児童文学作家 成安造形大学客員教授 令丈 ヒロ子氏
- 内容
令丈氏が“パンプキン爆弾”を知ったきっかけから、著書『パンプキン！模擬原爆の夏』を一冊の本に仕上げるまで取組と、その中での先生自身の思いについて話していただいた。
また、本講演会とあわせて、成安造形大学の学生のみなさんによる「パンプキン爆弾って何？」という学習パンフレットの制作に取り組み、地域交流室で取組をパネルで紹介した。
- 参加者
69 名。



講演会チラシ



講演会の様子



今回の取組についてのパネル紹介の様子



講演会に合わせて作成したリーフレット

「パンプキン爆弾って何？」

A5 サイズ 4 ページ 2000 部作成

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習の支援

○来館学校数 実績

区分	総数	小学校	中学校	高等学校	大学等
学校数	48校	37校	6校	4校	1校
児童・生徒数	2,330人	1,852人	364人	93人	21人

○主な方法

- ・ 展示見学
(学校が作成するワークシートによる調べ学習)
- ・ 館の職員によるミニ講座
- ・ 戦争体験者によるお話し会
- ・ 戦時食体験



来館学習での展示見学

(2) 出前授業

○出前授業実施校 実績

区分	総数	小学校	中学校	高等学校	大学等
学校数	83校	44校	27校	8校	4校
児童・生徒数	8,507人	3,924人	2,616人	1,871人	96人

○主な方法

- ・ 実物や写真・動画の提示
- ・ 体験談の紹介
- ・ 資料観察



出前学習において、学級担任とティーム・ティーチングを行っている様子。



出前授業での実物資料の見学

(3) 地域への平和学習支援（平和祈念パネル展・平和学習会）

アウトリーチ事業の一環として、平成 25 年度においては、県内の 2 か所で平和祈念パネル展および平和学習会を開催した。平和祈念パネル展では、当館所蔵の展示パネル「滋賀で学ぶ戦争の記録」を中心に展示を行った。甲賀市の会場では、当該地域の戦争体験者の体験談パネルおよび関連資料をあわせて展示した。

また、平和学習会では、戦争当時の滋賀県の記録を写真等で紹介するとともに、音楽で平和への思いを深める機会として、コンサートを開催した。

○栗東市

会場：栗東市総合福祉保健センターおよび栗東市立葉山中学校

期間：平成 26 年（2014 年）1 月 18 日～25 日

平和学習会参加者：110 名

平和学習会内容：

①滋賀県平和祈念館の活動「滋賀で学ぶ戦争の記録」

②人権コンサート

出演：JERRYBEANS&yokko（NPO 法人マイペースプロジェクト）



平和祈念パネル展の様子（※最終日のみ栗東市立葉山中学校で開催）



職員による平和学習会



コンサートの開催

○甲賀市

会場：忍の里・プララ

期間：平成 26 年（2014 年）2 月 14 日～21 日

平和学習会参加者：64 名

平和学習会内容

①滋賀県平和祈念館の活動「滋賀で学ぶ戦争の記録」

②平和コンサート

出演：JERRYBEANS&yokko（NPO 法人マイペースプロジェクト）



平和祈念パネル展の様子（1階ホワイエ）



平和祈念パネル展の様子（2階ロビー）



平和学習会（館長あいさつ）



平和学習会（職員による滋賀県の記録の紹介）

(4) 資料の貸出による平和学習支援

滋賀県平和祈念館では、学校や地域への平和学習を支援するためにハンズオン資料やパネルの貸出を行っている。平成 25 年度は、視聴覚教材として新たに戦争体験者デジタルアニメーションを 2 作品制作した。

貸出の傾向としては、学校への貸出は、授業で活用するためのハンズオン資料や視聴覚映像（体験談やアニメ）の要望が多い。地域からの貸出の要望は、特に夏に集中する。

○資料貸出 実績

区分	総数	小学校	中学校	高等学校	大学等
学校数	85 校	22 校	45 校	16 校	2 校
児童・生徒数	14,198 人	1,694 人	8,324 人	3,630 人	550 人

○貸出資料の種類

- ・ハンズオン資料…千人針、臨時召集令状（複製）、出征たすき、防空頭巾、配給切符、慰問袋、鉄かぶと、ゲートル、国防婦人会たすき、いなご採り袋、雑誌「週刊少国民」（ラミネート版）、カルタ「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）、双六「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）
- ・パネル…Aセット（16 枚組）
Bセット（20 枚組）
Cセット（16 枚組）＜滋賀で学ぶ戦争の記録＞
写真・ポスター類（64 枚）
- ・ひとつのはなセット
- ・ターポリン地図
- ・視聴覚資料…**新**戦争体験者デジタルアニメーション
 - ①学童疎開のくらし～大阪から来た女の子～
 - ②滋賀県満州報国農場の若者たち滋賀県民の戦争体験証言ビデオ「記憶の湖（うみ）」
その他、戦争や平和に関するビデオ・DVDなどがある。

(5) 戦争体験者デジタルアニメーションの制作

次世代を担う子どもたちが、戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶための学習教材として活用することを目的として、平成25年度に戦争体験者デジタルアニメーションを2作品制作した。ひとつは、小学生を主な活用対象とした作品で、集団学童疎開でのくらしをテーマにしたものである。もう一つは、小学校5年生から中学生を活用対象とした作品で、滋賀県満州報国農場へ渡った当時の若者の体験をテーマにした作品である。

いずれの作品とも、平成26年度より学校や地域等の要望に応じて貸出を行ったり、館内での視聴を行ったりする予定である。

作品名	メディア	時間
大阪から来た女の子 ～集団学童疎開のくらし～	DVD	17分
滋賀県満州報国農場の若者たち ～なつかしい故郷へ帰るために生き続けた日々～	DVD	17分

滋賀県平和祈念館の戦争・平和を学ぶ新しい視聴覚教材(DVD)ができました!

やわらかいアニメーションと語り部の聲まで、子どもが感動に見てくれそうです。(小学生対象)

大阪から来た女の子 DVD
～集団学童疎開のくらし～ (視聴DVD: 17分)

やわらかいアニメーションと語り部の聲まで、子どもが感動に見てくれそうです。(小学生対象)

滋賀県満州報国農場の若者たち
～なつかしい故郷へ帰るために生き続けた日々～ (視聴DVD: 17分)

体験談とともに、写真、動画により歴史の流れや戦時の様子がよくわかります。(中学生対象)

学習教材としてのポイント!

- 滋賀県にかかわる戦争体験
～子どもの関心を高めるアニメーションで表現～
- 戦争体験者本人が登場
- 当時の貴重な歴史的映像を豊富に挿入
～事実と関連させ、戦争について学び、平和について考えることができます～

貸出方法

- ・ 利用したい日時を利用10日前までにご連絡ください。
- ・ 貸出期間は原則1週間、貸出費用は無料です。
- ・ 利用にあたっては、借用申請書を提出していただきます。

DVD貸出のお問い合わせ先
滋賀県平和祈念館
TEL0749-46-0300 FAX0749-46-0350
E-mail:shwa@pref.shiga.lg.jp

詳しくはホームページ「しがけんバーチャル平和祈念館」をご覧ください。 | しがけんバーチャル平和祈念館 | 協賛

戦争体験者デジタルアニメーション貸出の
広報チラシ

5 ボランティア活動支援事業

当館では、開館に先立って平成 23 年度より当館の活動に参加いただけるボランティアの募集を開始した。平成 25 年度においては、新たにボランティアの申込があった方を対象とした「ボランティア登録講座」を 3 回開催（4 月、7 月、11 月）し、10 名の方が新たにボランティア登録をされた。平成 25 年度末現在におけるボランティア登録者数は 64 名で、年齢層は 20 代から 80 代の幅広い世代の方に登録いただいている。

具体的な活動内容としては、絵本・紙芝居読み聞かせ活動や戦時食体験活動などのグループ活動が進められているほか、ボランティア全体の活動として、開館周年記念事業などの館事業への協力や類似施設を訪問する研修会などが行われている。

ボランティアには、今後ともそれぞれの活動を通じて、当館の利用者との交流を図り、さらには、利用者と館とをつなぐ役割を担っていただくことが期待される。当館では引き続き、ボランティアの募集を行うとともに、その活動の支援を行っていく。

○ボランティア活動グループの紹介

語り部、語り継ぎ部 活動グループ	自らの体験や家族や体験者の方々から聞いた話をもとに、戦争体験を語り継いでいく活動をします。
施設案内活動グループ	館内での来館者との交流や施設案内をします。
大凧づくり活動グループ	東近江大凧まつりに向けて、ミニ大凧（2 畳）を作ります。
戦時食体験活動グループ	食べるものがなかった戦争末期から戦後の生活苦を感じ、「食」の大切さについて考えます。
絵本・紙芝居読み聞かせ 活動グループ	平和や戦争をテーマにした絵本や紙芝居の読み聞かせをする活動をします。
手紙等解読グループ	戦争中の手紙や日記などを、読みやすいように解読する作業をします。
地域調査グループ	県内の戦争遺跡（掩体壕、列車壕など）のフィールドワークなどをします。
戦争体験聞き取り調査 グループ	館職員とともに、戦争体験者の方からお話を聞き、記録する活動をします。
昔遊び活動グループ	子どもたちに昔の遊びを伝える活動をします。



滋賀県平和祈念館ボランティア



ボランティア登録講座



ボランティア研修会（長野県満蒙開拓平和祈念館訪問）



ボランティアによる創作人形劇上演



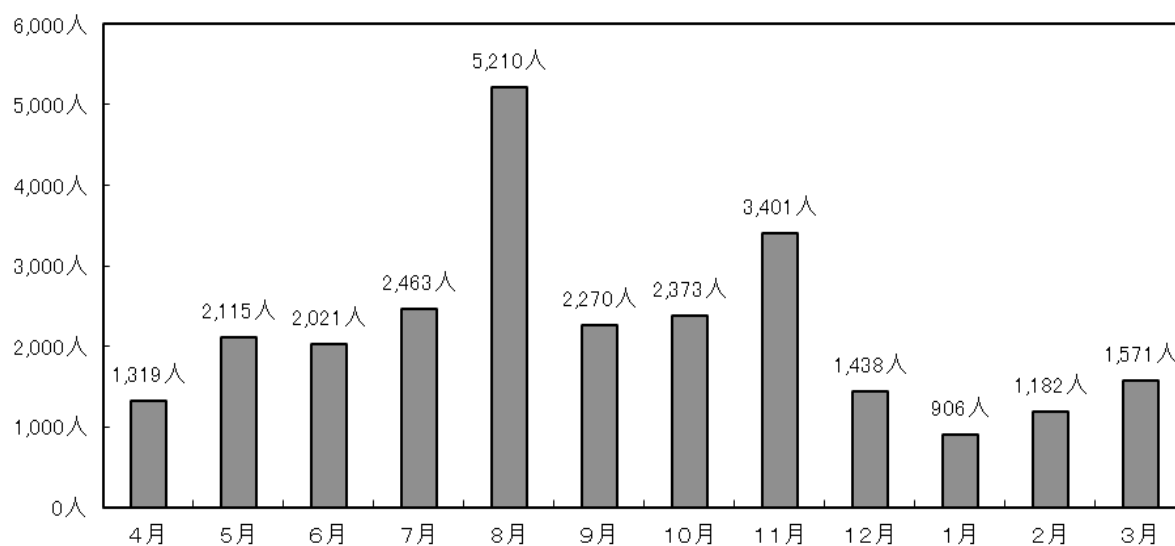
東近江大風まつりへの参加

Ⅱ 資料

1 利用状況

(1) 月別来館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開館からの 累計
開館日数	21日	24日	19日	25日	31日	22日	20日	23日	17日	19日	21日	22日	264日	538日
来館者数	1,319人	2,115人	2,021人	2,463人	5,210人	2,270人	2,373人	3,401人	1,438人	906人	1,182人	1,571人	26,269人	67,615人
1日あたりの 平均来館者数	63人	88人	106人	99人	168人	103人	119人	148人	85人	48人	56人	71人	100人	126人



(2) 来館学校一覧

月	日	学 校 等 名 称	人数
5	17	湖南省立岩根小学校	48人
	22	東近江市立愛東南小学校	20人
6	3	東近江市立愛東中学校	53人
	5	滋賀県立大学人間文化学部	21人
	12	米原市立伊吹山中学校	71人
	14	東近江市立市原小学校	19人
	21	東近江市立八日市南小学校	86人
9	20	東近江市立御園小学校	66人
	26	滋賀県立甲良養護学校高等部	19人
	27	東近江市立布引小学校	62人
10	21	竜王町立竜王西小学校	38人
	24	長浜市立坂田小学校	67人
	31	東近江市立能登川北小学校	12人
		甲賀市立鮎河小学校 甲賀市立山内小学校	4人 8人
11	1	東近江市立八日市北小学校	69人
		東近江市立湖東第一小学校	42人
	5	多賀町立多賀小学校	60人
	7	東近江市立五個荘小学校	146人
	8	東近江市立山上小学校	37人
	11	守山市立明富中学校	10人
	12	草津市立山田小学校	66人
	13	愛荘町立秦荘西小学校	32人
	14	東近江市立八日市西小学校	56人
	15	東近江市立箕作小学校	94人
		東近江市立湖東第二小学校	34人
	19	竜王町立竜王小学校	64人
	20	東近江市立能登川西小学校	25人
	21	東近江市立愛東北小学校	18人
	22	東近江市立蒲生西小学校	93人
		豊郷町立豊郷小学校	38人
	26	豊郷町立日栄小学校	36人
		甲賀市立信楽中学校	123人
	27	東近江市立玉緒小学校	36人
	28	東近江市立愛東南小学校	14人
	東近江市立湖東第三小学校	45人	
29	東近江市立蒲生北小学校	55人	
	長浜市立速水小学校	51人	
12	4	東近江市立船岡中学校	69人
	5	東近江市立能登川南小学校	111人
		東近江市立蒲生東小学校	38人
	6	東近江市立能登川東小学校	72人
	9	甲賀市立伴谷東小学校	72人
	14	私立近江兄弟社高等学校	7人
19	東近江市立愛東北小学校	18人	
2	5	滋賀県立三雲養護学校高等部	7人
	13	私立近江兄弟社高等学校	60人
3	20	東近江市立愛東中学校	38人

48校 2,330人

(3) 出前授業実施団体

月	日	学 校 等 名 称	人数
5	10	滋賀県立河瀬中学校	80人
	22	滋賀県立北大津高等学校	212人
	27	米原市立伊吹山中学校	71人
	30	大津市立葛川中学校	2人
6	5	成安造形大学芸術学部	11人
	7	甲賀市立信楽中学校	33人
	10	彦根市立平田小学校	59人
	11	甲賀市立信楽中学校	33人
	13	滋賀県立伊吹高等学校	160人
	19	大津市立南郷小学校	86人
	20	東近江市立八日市西小学校	56人
	25	高島市立マキノ中学校	46人
7	2	滋賀県立大学人間文化学部	39人
	8	草津市立松原中学校	132人
	9	滋賀大学教育学部	5人
	10	栗東市立大宝東小学校	121人
	16	滋賀県立大学人間文化学部	41人
	17	湖南市立甲西中学校	150人
	18	滋賀県立聾話学校中学部	18人
	8	28	草津市立笠縫東小学校
9	25	滋賀県立八幡商業高等学校	640人
	27	長浜市立木之本中学校	199人
10	1	近江八幡市立島小学校	17人
		大津市立田上小学校	91人
	3	守山市立立入が丘小学校	69人
	4	近江八幡市立桐原東小学校	91人
	8	大津市立比叡平小学校	29人
	10	彦根市立高宮小学校	84人
		彦根市立城南小学校	177人
	11	草津市立草津第二小学校	135人
	15	彦根市立城北小学校	59人
	17	草津市立笠縫小学校	106人
		大津市立仰木の里小学校	42人
	18	大津市立瀬田小学校	170人
		竜王町立竜王西小学校	38人
	21	大津市立中央小学校	40人
		大津市立和邇小学校	107人
	22	草津市立常盤小学校	38人
		大津市立青山小学校	157人
	23	甲賀市立伴谷小学校	105人
		滋賀県立安曇川高等学校	238人
	24	滋賀県立信楽高等学校	70人
	25	愛荘町立愛知川小学校	86人
		近江八幡市立北里小学校	52人
	28	東近江市立五個荘小学校	146人
29	大津市立膳所小学校	125人	
30	大津市立坂本小学校	81人	

月	日	学 校 等 名 称	人数
11	5	近江八幡市立金田小学校	145人
	6	湖南市立菩提寺北小学校 大津市立上田上小学校	48人 14人
	12	滋賀県立東大津高等学校	396人
	14	守山市立物部小学校	156人
	18	高島市立新旭北小学校	68人
	19	長浜市立湯田小学校	133人
	20	栗東市立大宝小学校	107人
	21	甲賀市立信楽中学校 大津市立富士見小学校	123人 96人
	22	私立近江兄弟社高等学校	35人
	25	大津市立平野小学校	192人
	27	滋賀県立甲南高等学校	120人
	29	東近江市立船岡中学校	69人
	12	2	守山市立守山北中学校
3		大津市立小松小学校	25人
6		愛荘町立秦荘東小学校	47人
12		甲賀市立希望ヶ丘小学校	87人
13		近江八幡市立八幡小学校	131人
16		野洲市立祇王小学校	94人
1	14	東近江市立朝桜中学校	194人
	15	湖南市立日枝中学校	72人
	23	湖南市立日枝中学校	36人
	27	高島市立安曇川中学校	110人
	28	日野町立日野小学校	97人
	29	湖南市立日枝中学校	108人
2	3	近江八幡市立安土中学校	120人
	18	豊郷町立豊日中学校	59人
	19	東近江市立聖徳中学校	94人
	20	東近江市立聖徳中学校	122人
	25	豊郷町立豊日中学校	59人
	26	彦根市立西中学校	103人
3	6	彦根市立南中学校	140人
	7	彦根市立南中学校	140人
	13	滋賀県立守山養護学校小学部	18人
	14	愛荘町立愛知中学校	152人

83校 8,507人

2 広報活動

新聞等報道記録（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

月	日	内 容	報道機関
平25	4	7 平和を学ぶ心大風に込め 東近江の祈念館ボランティア製作 19 「被爆桜」初めて開花 広島から届き、昨年植樹 平和祈念館 「被爆桜」咲く 東近江・祈念館 被爆桜開花 平和を思う	京都新聞 京都新聞 毎日新聞 朝日新聞
	5	23 東近江大風まつり 26日初のふれあい運動公園開催 ミニ大風30団体や全国の凧も 31 太平洋戦争と湖東テーマに8日講座	滋賀報知新聞 中日新聞
	6	3 戦時に食べた野草探せ 東近江・県平和祈念館 体験催し 7 食から学ぶ戦争の悲惨さ平和の尊さ 8日の平和学習講座 野村さん体験語る 滋賀県平和祈念館 22 県平和祈念館の平和学習講座 23 ふみおばちゃんの布ぞうり教室 ボランティアが不足 県平和祈念館 『一緒に盛り上げて』『語り部』など参加募集 28 丹精した花をどうぞ 東近江の養護学校生 平和祈念館に贈る 30 『集団疎開』児童の日常は 東近江・県平和祈念館で企画展示	京都新聞 滋賀報知新聞 滋賀報知新聞 滋賀報知新聞 滋賀報知新聞 毎日新聞 中日新聞 朝日新聞
	7	8 『こんな身近な場所に・・・』 西南戦争遺跡巡る 大津 11 平和について考えて 戦争体験者の話や戦時食作り 小中対象のプログラム 20 独爆撃機の写真発見 滋賀県平和祈念館保管『技術交流の証し』 平和への願いを込めて。県民の戦争体験を語り継ぐ『へいわの学校・あかり』 29 今に伝える学童疎開 東近江 手紙や衣服など300点 30 【現代のことば】8月は休まず開館	朝日新聞 毎日新聞 京都新聞 リビング滋賀 中日新聞 京都新聞
	8	2 平和学習講座受講生募集 4 平和を願い、考えよう 15日平和祈念館でつどい 語り、人形劇、朗読、音楽など『平和のあかり』点灯も 6 あさイチ 「戦争ってなに？」 次世代へ継ぐ命の尊さ 従軍看護婦を志願、戦地へ 悲惨な体験伝え平和願う 7 語りつぐ平和へのねがい 戦争体験者5人の魂の叫び 死を覚悟した思い赤裸々に 遺跡巡り平和を考える。20人が第9連隊の碑など 8 県平和祈念館 来館5万人 県平和祈念館 来館者5万人 平和祈念館5万人突破 入館者数、予定より早く 県平和祈念館 来館者5万人達成 開館から1年4ヶ月で 9 学童疎開のモノ語り 戦争体験お話し会 疎開児童の体験紹介 県内で平和祈念展 学童疎開や軍事施設、体験談など 平和を願い、考えよう 15日平和祈念館でつどい 10 明日から5日間戦争体験者講演 13 池田喬子さん取材 戦渦に生きた子どもたち 戦争平和のメッセージ 15 人形劇 戦争伝える 県平和祈念館のボランティア18日初公演	朝日新聞 滋賀報知新聞 NHK総合 読売しが県民情報 滋賀報知新聞 毎日新聞 京都新聞 朝日新聞 毎日新聞 中日新聞 読売しが県民情報 読売しが県民情報 京都新聞 滋賀報知新聞 滋賀報知新聞 中日新聞 NHK大津 滋賀報知新聞 京都新聞

月	日	内 容	報道機関
	16	思いを寄せた手製あんどん 県平和祈念館 平和を願うあんどんの光 終戦記念日 東近江で集い メッセージを込め子どもら手作り 子が描いた願いに点灯 東近江 へいわの明かりランプでともす 東近江でつどい 子供たちにも戦時の体験を 東近江で『祈念のつどい』 八日市飛行場に配備か 戦時中の独製急降下爆撃機 滋賀県平和祈念館で写真確認	中日新聞 京都新聞 朝日新聞 読売新聞 産経新聞 産経新聞
	18	君の思いを表現しよう ピースメッセージ 平和祈念館募集中 紙芝居と人形劇 手づくり上演	滋賀報知新聞 滋賀報知新聞
	20	戦地からの返還 悲しみの遺品 出征兵士・片山さん遺族 平和祈念館に寄託 東近江・へいわの学校あかり 戦時食作り考える場に	産経新聞 読売しが県民情報
	23	ボランティアが感動の初公演 手作り紙芝居と人形劇で 入館者5万人突破 県平和祈念館 開館1年5ヶ月で達成	滋賀報知新聞 産経新聞
	26	平和学習講座	湖国とりびゅぬ
9	7	戦争と平和を考えよう 平和祈念館の平和学習講座	滋賀報知新聞
	11	平和学習講座受講生を募集 東近江で14日から	中日新聞
	15	模擬原爆を児童小説に 令丈さん語る 28日平和祈念館	滋賀報知新聞
	16	日本の平和運動佛大教授が解説 学習講座始まる	京都新聞
	20	原爆 戦争 平和 知って 東近江28日作家令丈さん講演会	中日新聞
	24	戦中の肉筆思い解く 手紙解読グループ 1通ずつ丁寧に判読 県平和祈念館所蔵歴史伝える貴重な資料	読売しが県民情報
	27	【現代のことば】平和をアートする	京都新聞
10	1	県平和祈念館 『平和学習講座』受講生募集	読売しが県民情報
	10	平和学習講座『日本の軍隊と自衛隊』	滋賀報知新聞
	11	平和学習講座『日本の軍隊と自衛隊』	滋賀報知新聞
	18	サツマイモだけの食事 平和祈念館で戦時食体験	滋賀報知新聞
	23	防空頭巾 戦闘機絵柄の茶碗 戦中の日常生活学ぶ 草津・常盤小 6年生	京都新聞
	25	募集 滋賀県平和祈念館ボランティア 92歳、森下さんがパソコンで自伝手記を寄贈	滋賀報知新聞 滋賀報知新聞
11	1	平和学習講座 『坂の上の雲と日露戦争以後』	朝日新聞
	4	入賞者6人を表彰 県平和祈念館・ピースメッセージコンクール	京都新聞
	25	【現代のことば】語り部から『継ぎ』の世代へ	京都新聞
12	12	戦時中の暮し紹介 東近江 衣服など200点を展示	中日新聞
	20	平和祈念館で迎春の準備 八日市養護学校生が寄贈 企画展示更新で24日から休館 滋賀県平和祈念館	滋賀報知新聞 滋賀報知新聞
	24	戦中の暮らしに耳傾け 東近江市立蒲生東小	読売しが県民情報
平26	1	14 生涯、戦争体験の語り部 正野雄三さん 16 第7回企画展示紹介 17 戦時下の「縣満洲報國農場」 自給自足体制への若者たち派遣 22 第7回企画展示紹介 24 戦時下、満州に農場 湖国の11人証言 基に紹介 憧れの地…満州へ派遣 勤労奉仕隊を紹介 25 平和問う「憧れの満州」 東近江で企画展	読売しが県民情報 びわ湖放送 滋賀報知新聞 FMひがしおうみ 京都新聞 中日新聞 朝日新聞

月	日	内 容	報道機関
	28	第7回企画展示紹介 【現代のことば】可変・情報型展示の試み	東近江ケーブル ネットワーク 京都新聞
	31	滋賀の博物館・美術館逸品展	毎日新聞
2	2	パネル展示や学習会、平和コンサートも 平和祈念館が出張展示	滋賀民報
	10	戦争体験 聞き取り急務 県平和祈念館開館2年 県平和祈念館 4ヶ月でテーマ変更エピソード紹介 展示工夫来館者目標超え	京都新聞 京都新聞
3	4	【まちかど掲示板】★県平和祈念館開館2周年イベント	読売しが県民情報
	6	県平和祈念館2周年イベント	毎日新聞
	7	開館2周年で記念の催し「平和祈念館」	滋賀報知新聞
	9	学生から見た戦争とは 研究成果を発表	中日新聞
	17	「戦後生まれ 役割大切」 県平和祈念館2周年 イベント多彩体験語り継ぐ	毎日新聞
	26	【現代のことば】モノの“いのち”	京都新聞
	28	何しに行ったのかわからない 神戸先生が「満州報国農場」語る	滋賀報知新聞
	31	戦前の琵琶湖畔 臨む 県平和祈念館 特大パノラマ写真展示	中日新聞

3 組織（平成26年3月現在）

(1) 職員

館長	端	信行
副館長	北川	光明
副主幹	名倉	康夫
主査	田中	慶希
主任主事	林	耕平
主任主事	高屋	大樹
学芸員	北村	美香
嘱託員	坂井	秀男
嘱託員	日高	昭子
臨時的任用職員	池内	恵
臨時的任用職員	圖司	康宏
臨時的任用職員	本居	久美子

(2) 職員構成

区分	館長	行政職	研究職	教育職	嘱託・臨職	合計
人数	1	3	1	2	5	12

(3) 滋賀県平和祈念館運営会議

座長	端	信行（滋賀県平和祈念館長）
委員	中島	伸男（びわこ学院大学 非常勤講師 八日市郷土文化研究会 会長）
	中井	均（滋賀県立大学 教授）
	松井	尚之（一般財団法人滋賀県遺族会 会長）
	村山	邦博（愛東地区まちづくり協議会 事務局長 愛東コミュニティセンター 館長）
	増田	隆（NPO 法人愛のまちエコ倶楽部 事務局長 あいとうエコプラザ菜の花館 館長）
	吉澤	浩明（東近江市企画部企画課 課長）
	畑	重三（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 会長）
	中澤	光子（滋賀県平和祈念館ボランティアの会）

(4) 滋賀県平和祈念館展示等監修委員

委員	原田	敬一（佛教大学 教授）
	原山	浩介（国立歴史民俗博物館 准教授）

4 決算（平成25年度）

○歳入状況

（単位：円）

科目	決算額
基金繰入金	30,099,452
諸収入	2,115,819
一般財源	5,270,491
合計	37,485,762

○歳出状況

（単位：円）

事業名	主な事業内容	決算額
管理運営費	施設維持管理費、施設運営費、事務費、広報費	28,762,211
展示事業	企画展示、特別企画展示	2,540,705
資料収集保存事業	収蔵資料防虫防かび対策、研究図書購入、収蔵資料等デジタルデータ管理・公開システムの運用	2,616,479
普及啓発事業	平和学習講座、体験者お話し会、体験談集発行	1,305,821
平和学習支援事業	平和学習支援教材作成	2,260,546
合計		37,485,762

5 施設概要

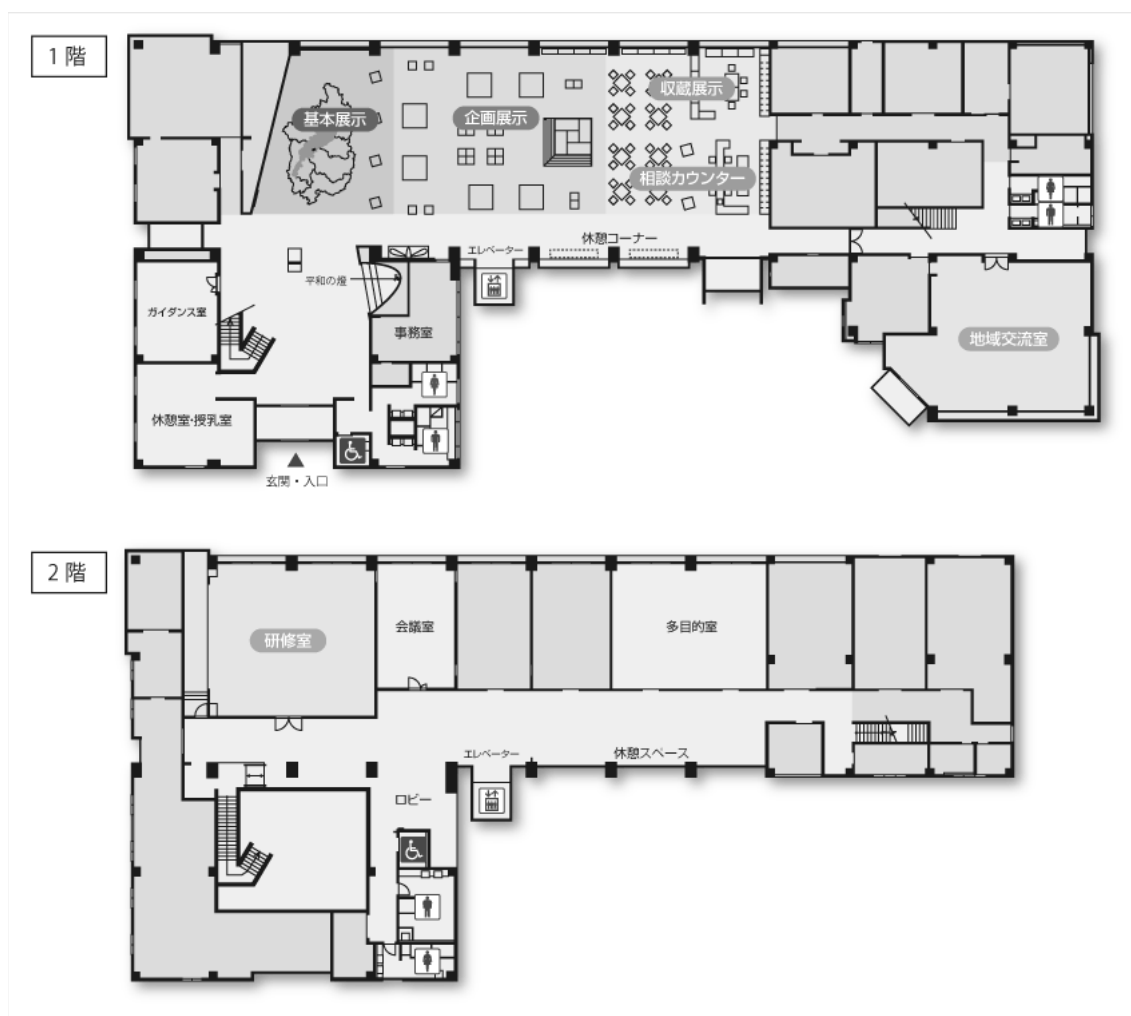
○所在地 滋賀県東近江市下中野町 431 番地

○建物概要

構造 鉄筋コンクリート 2階建
敷地面積 2,864.00㎡
延床面積 3,115.45㎡
1階 1,759.03㎡
2階 1,356.42㎡

○開館年月日 平成24年3月17日

○平面図



6 利用案内

- 入館料 無料
- 開館時間 午前9時30分から午後5時
- 休館日 月曜日および火曜日（ただし祝日にあたる場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
※その他、業務の都合により休館する場合があります。
- 駐車場 約50台（無料）
- アクセス



- ・名神高速道路「八日市 I C」から車で約10分
- ・JR 琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ

7 関係規程

滋賀県平和祈念館の設置および管理に関する条例
平成23年滋賀県条例第48号

(設置)

第1条 県民に戦争の悲惨さおよび平和の尊さを伝えることにより、平和を願う豊かな心を育み、もって平和な社会の発展に資するため、滋賀県平和祈念館（以下「平和祈念館」という。）を東近江市下中野町に設置する。

(業務)

第2条 平和祈念館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県民の戦争に関する体験の記録その他の資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「資料」という。）を収集し、保管し、展示し、および利用に供すること。
- (2) 平和を願う豊かな心を育むために必要な普及啓発を行うこと。
- (3) その他平和祈念館の設置の目的を達成するために必要な業務

(開館時間等)

第3条 平和祈念館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 平和祈念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日および火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日である場合を除く。）
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

3 知事は、必要と認めるときは、第1項に規定する開館時間を変更し、または前項に規定する休館日を変更し、もしくは臨時に休館日を定めることができる。

(特別観覧の許可)

第4条 平和祈念館が保管する資料の熟覧、模写、模造、撮影その他の利用（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請し、その許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、前項の規定による申請があった場合において、次の各号のいずれかに該当するときは、同項の許可をしないことができる。

- (1) 平和祈念館における秩序を乱し、または善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 資料または平和祈念館の管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他特別観覧を許可することが適当でないと認められるとき。

3 知事は、第1項の規定による許可をする場合においては、資料または平和祈念館の管理上必要な限度において、条件を付すことができる。

(特別観覧の許可の取消し等)

第5条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の規定による許可を取り消し、または特別観覧を制限し、もしくは特別観覧の停止を命ずることができる。

- (1) 前条第1項の許可を受けた者（以下「特別観覧者」という。）が詐欺その他不正の行為によって同項の許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 特別観覧者がこの条例またはこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (4) 特別観覧者が前条第3項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 当該許可に係る資料が災害その他の事故により特別観覧に堪えなくなったとき。
- (6) その他知事が特に必要と認めるとき。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、規則で定める。

付 則

この条例は、平成24年3月1日から施行する。ただし、第2条第1号（資料の展示および利用に係る部分に限る。）および第4条の規定は、同月17日から施行する。

滋賀県平和祈念館 年報 第2号 (平成25年度)

発行日 平成26年(2014年)7月16日
編集・発行 滋賀県平和祈念館
〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町431番地
TEL 0749-46-0300/FAX 0749-46-0350
E-Mail heiwa@pref.shiga.lg.jp
印刷 (有)東呉竹堂(ひがし印刷)

